

高校生を巻き込んだ地域づくりについて

①北海道

- ・～高校生が創る～北海道のこれからの移住・定住

地元の良さを再発見し、地域資源の活用や新たな施策などで、地域への移住・定住者を増やすプランを募集するコンテスト。NPOが主催し、28年度から年1回実施してきている。第1回には10校16チームが参加し、書類審査を通過した5チームが移住定住に繋がる企画をプレゼンした。役場にとっては、新たな企画の提供を受けると共に、高校生が自ら地域のことを考えるきっかけづくりにもなっている。

②長野県飯田市

- ・地域人教育

地域人教育とは、「地域を愛し、理解し、地域に貢献する人材を育てる教育活動」のこと。高校・大学・市が協定を結び、商業課の学生が3年間、授業として取り組む課題研究活動を地域全体で育成支援し、学生は自らの生き方を考えるきっかけとする。市（公民館）は学生と地域のつなぎ役となり、月に1回、3者による推進会議を開催し、地域の課題を共有しながら、解決策を模索していく。学生の中には、地域づくりに関わりたいために、進学せずに地元就職する者も出てきている。

③福井県鯖江市

- ・鯖江市役所JK課

NPOが実施した地域活性化プランコンテストの中で、「行政に関心が薄い女子高生を巻き込めば、他の世代を巻き込めるのでは」として「鯖江市役所JK課」の提案があり、市が実施。事務局である市がサポートに徹し、女子高生の発想を最大限に活用。その結果、図書館の空席状況確認アプリ Sabota の開発、オリジナルスイーツの開発・販売といった、高校生ならではの企画が生まれ、話題性から多くのメディアに取り上げられた。当初、ネーミングなどに1週間で約100件のクレームが来た一方、活動を通じてまちの魅力を再発見した女子高生も多く、1期生13名中10名が卒業後も市内でまちづくりに参加。若い女性が地域に残り、活躍できるきっかけとなっている。加えて、JK課の活動に触発された女性グループが自主的に「OC（おばちゃん）課」を立ち上げるなど、取組が多世代に波及した。